

## 公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

## URC資料室だより NO.73 平成26年7月号

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館6F

☎092-733-5707 FAX:092-733-5680 e-mail: [library@urc.or.jp](mailto:library@urc.or.jp)福岡アジア都市研究所は、  
福岡市を中心に産学官が協力して  
設立した研究機関です

## 目次

- ◆はじめに ロンドン出張に際して  
上席主任研究員・情報戦略室長／久保隆行 . . . . . 1
- ◆アーバンデータチャレンジ2014キックオフイベント  
参加報告／事務局長 梶原信一 . . . . . 2
- ◆URC資料室ニュース . . . . . 3
- ◆URCニュース

- 平成26年度第1回都市セミナー開催報告 . . . . . 3
- 2014年度「アジア都市景観賞」の募集開始 . . . . . 3
- 平成26年度第2回都市セミナー開催予告 . . . . . 3
- ◆今月のおすすめ . . . . . 3
- ◆マスコミでみるURCの今 . . . . . 4
- ◆資料速報 平成26年6～7月受入分 . . . . . 別添

## はじめに

## ロンドン出張に際して 上席主任研究員・情報戦略室長 久保隆行

6月の終わりに業務で4日間ロンドンに滞在しました。私にとってロンドン訪問は2年半ぶりになります。前回よりもポンドが高騰している物価の高さを何よりも実感しました。そして、街の変化もさまざまなところで発見しました。まず、ロンドンの新しいランドマークとして、「シャード」と「ウォーカー・トーキー」が仲間に加わっていました。これらの建物のニックネームの由来は見てのとおりです。とくに、「ウォーカー・トーキー」はロンドンの金融センターの「シティ」の景観を一層奇抜なものにしましたが、凹状の外壁に反射して集まった光によって自動車が溶けるという「事件」が起きて、さらなる話題を呼んだとのことです。これらの大きな変化もさることながら、街中の至る所で新築物件や工事現場を目にしました。先に述べた例外を除いて、一般的にロンドンでは景観の保全の規制が厳しいので小さな建て替えやリノベーションのような物件が多くを占めています。これらの多くは住宅です。最近、住宅を新設する際には、バルコニーの設置が義務付けられたとのことで、新しい住宅はとくに目につきやすいです。



「シャード」



「ウォーカー・トーキー」(左)

ボリス・ジョンソン市長がかかげる「ロンドン・プラン」という基本計画によれば、ロンドンの人口は2011年時点と比較して20年間で130万人増えるとしています。現に、その予測を上回り年間10万人のペースで人口が増え続けています。しかし、ロンドンの都市空間にはリミットがあります。また、ニューヨークのように次々と高層化することもままなりません。「シャード」のような超高層ビルのプロジェクト案を現地の建築家からいくつか見せてもらいましたが、許認可に今後何年も要するとのこと。また、地下鉄などの公共インフラについても、これ以上増やすことはできないので混雑していくことは必至です。電力需要も上昇を続けるなかで、日本で震災後に行ったように、ピーク時の電力使用を制御する必要に迫られています。

そこで、ロンドン市は、人口が増加しても市民の生活の質を落とさないで、しかも税金をたくさん投入しないで効率よく都市を運営する取り組みを、市長のイニシアチブによって進めています。すなわち、都市のハード面での限界をソフト面で補っていかうという試みです。たとえば、地下鉄の混雑状況についての情報をオープン・データとして公開することによって、世界中の誰でも混雑を解消するアプリを設計して市に売り込むことができるようなしくみづくりです。公共交通以外にも、水道や電力供給、防犯や防災、公共施設の管理など、市政が担う事業をスマートにサポートするシステムをオープン・イノベーションによって構築することは、起業家側のビジネスにつながります。市政側は、従来の公共発注



街で見かけた新しい住宅

の委託業務を入札ではなく、世界からイノベティブな提案を呼びかけて、優れたものを採用することによって、大きなメリットを享受することができます。

今回の出張では、FDC の後藤事務局長とともに、オープン・イノベーションの公共活用をテーマとした「シティ・サミット」という国際会議に参加しました。会場のロンドン市庁において、世界各地の都市から市政担当者と、起業家を主としたソリューション・プロバイダーが一堂に会して、各地での実績と課題について情報交換しました。オープン・イノベーションの先進都市であるバルセロナをはじめ、コペンハーゲン、マルモなどのヨーロッパの都市にボストンやサンフランシスコ、ナイロビやラゴスなどを加えた参加都市に、アジアからは福岡

市のみが招待されました。福岡市でもすでに MICE のオペレーションの一部にオープン・イノベーションを活用する試みが昨年よりはじまっています。ロンドンのような成長を続ける都市の一員として、福岡においてもオープン・イノベーションをキーワードに、世界中から起業家が集まる一歩になればと思いながら、ロンドンをあとにしました。



ロンドン市長によるイノベーション提案への授賞式

## アーバンデータチャレンジ2014キックオフイベント 参加報告

## 事務局長 梶原信一

6月23日に、東京大学空間情報科学研究センター「次世代社会基盤情報」寄付研究部門と(一社)社会基盤情報流通推進協議会の主催による「アーバンデータチャレンジ2014」キックオフイベントが開催されました。この「アーバンデータチャレンジ2014」事業というのは、全国各地のオープンデータに関する先進的な取組を紹介しながら、自治体のデータの流通・公開の促進を図っていくというものです。



開会あいさつ

今回のキックオフイベントでは、2014年度のアーバンデータチャレンジ事業に参加することになる全国10か所の先進的なオープンデータの取組を行っている地域拠点が選ばれましたが、九州からは福岡市、九州先端科学技術研究所(ISIT)、それと当研究所(URC)の三者で設立した「ビッグデータ&オープンデータ研究会 in 九州(BODIK)」が選ばれました。当研究所がBODIKの設立に参加しているのは、平成24年度の総合研究「ユビキタスコンピューティングによる人にやさしく活力ある都市づくり」においてオープンデータ施策に関する調査研究を行ったことがきっかけになっています。

さて、東大駒場の第IIキャンパス生産技術研究所のコンベンションホールで開催されたこの事業のキックオフイベントでは、それぞれの地域からの報告発表の場をいただきましたので、BODIKの活動や福岡市の取組などを紹介してきました。

BODIKの活動を簡単に紹介しますと、九州におけるビッグデータ(コンピューター上における大量・多種多様なデータのことです。)やオープンデータ(公共データを民間に開放することです。)に関する取組の推進を図っていくため

に前述の設立3団体が協力しながら各種事業を行っているものです。BODIKは、昨年設立し、本格的な活動を行うのは本年度からですが、九州のビッグデータ・オープンデータの取組を促進させるため、福岡市のオープンデータ施策(秋を目途にオープンデータサイトの立ち上げ)との連携、オープンデータをはじめ各種データへのアクセスと分析ツールの利用ができるサイトの構築(現在試験中)、専門家を招いた勉強会、各種セミナーの開催などを行っていきます。

ビッグデータやオープンデータに関する取組は世界中で進められていますが、日本はどちらかというと遅れている部類に入ります。持続可能で、効率的な利便性の高い社会を実現するための方策の一つとして、行政を含め各分野において集められている膨大なデータをICT技術を利用して分析し、社会的課題をはじめとしてさまざまな課題の解決に活用していくことが求められています。もちろんデータの利活用に当たっては、個人情報の取扱いなどしっかりとしたルールの枠組みの中で行うこととなります。

ビッグデータやオープンデータの取組を積極的に進めていくことによって、生活利便性の向上が期待されるのはもちろんですが、福岡市は全国の中でも情報通信事業者の集積が非常に高い都市であることから、私どもBODIKの活動が地元の企業の活動を活発にし、イノベーションの創出や地域産業の発展につながればと考えています。



福岡市説明



## URC資料室ニュース：資料の貸出期間を変更しました！

昨年度から資料の貸出を「一人10冊まで、4週間以内」としておりましたが、受入1年以内の雑誌や最新の参考図書について、貸出期限を「1週間以内」とさせていただきます。利用者の皆様の利便性を考え、より良い貸出期間を決めるため試行しておりますので、ご協力の程、よろしく願いいたします。なお、貸出冊数の変更はありませんので、大いにご利用ください。

## URCニュース

### 平成26年度 第1回都市セミナー アジア情勢報告会「タイの経済発展と九州の役割」を開催しました。

6月13日金曜日『タイの経済発展と九州の役割』と題して本年度第1回目の「URC都市セミナー（アジア情勢）」を開催し、42名のご参加をいただきました。

今回のセミナーでは、中村学園大学流通科学部講師(平成25年度当研究所の若手研究者研究活動奨励対象者)後藤恵美先生から「地域資源を活用した製品開発の現状と課題ータイ OTOP プロジェクトの事例に学ぶー」をテーマに講演いただき、続いて4月にタイ駐在を終えて帰国した日本タングステン(株)超硬部品部製造技術グループリーダー田中宏季氏から「タイの実情と日系企業の課題」をテーマに講演を行いました。

自らの体験も織り交ぜながら、現地写真を数多く引用した両講師の報告に、受講者は熱心に聞き入り活発な質疑応答が行われました。

なお、セミナー当日の講演資料の一部は、ホームページへアップしております。(PDF資料)



アジア情勢報告会の様子

### 2014年度「アジア都市景観賞」の募集を開始しました。

「アジア都市景観賞」は、アジアの人々にとって幸せな生活環境を築いていくことを目標に、「国連ハビタット福岡本部」、「アジアハビタット協会」、「福岡アジア都市研究所」、「アジア景観デザイン学会」の4団体の共催によって2010年に創設された景観に関する国際賞です。

第5回目の節目に当たる今年は、「未来へ幸せをつなぐ景観」をテーマに、環境共生型の持続可能な社会を目指し、心豊かな質の高い都市空間を創出している案件を募集・選考・表彰する予定です。

主な予定 募集期間:2014年5月下旬～7月31日 予備選考:2014年8月上旬  
合同審査会:2014年10月8日 授賞式:2014年11月18日(夏井圭介主任研究員)



昨年度授賞式の様子

### 平成26年度 第2回都市セミナー アジア情勢報告会「世界の都市政策とアジアの視点」を開催します。

平成26年7月30日水曜日の13時30分から15時まで(受付開始13時から)アクロス福岡 会議室608にて開催します。

今回の報告会では世界の都市政策の動向に着目し、当研究所の顧問であり、前国連ハビタットアジア太平洋本部長の野田順康(としやす)氏が最新の状況を紹介するとともに、アジアの視点から都市政策について報告し、今後の福岡市のまちづくりや福岡市と世界の都市とのビジネス交流・協力の可能性について探ります。皆様のご参加をお待ちしております。

定員100名で、ご参加は無料です。申込多数の場合は、先着順とさせていただきます。申込締切は、7月28日月曜日です。お申し込み方法は、住所・氏名・電話番号をお書きの上、電話、FAXまたはE-mailで下記までお申し込み下さい。

なお、福岡アジア都市研究所のホームページ(<http://www.urb.or.jp/>)からも申し込みが可能です。

Tel: 092-733-5686 Fax: 092-733-5680 E-mail: event1@urb.or.jp 担当: 中村、夏井  
(中村由美研究員)

写真説明: 本人撮影 第二回国連専門家会合(都市・地域計画)2014年4月10日コロンビア・メデリンにて

(第三回会合は11月10日から12日の2日間、福岡市で開催予定)

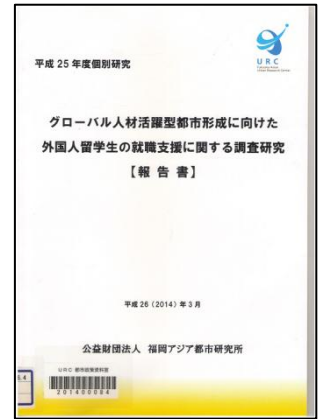


## 今月のおすすめ 平成25年度個別研究「グローバル人材活躍型都市形成に向けた外国人留学生の就職支援に関する調査研究報告書」

福岡アジア都市研究所 柳基憲研究員 平成26年3月発行

結論として、地場企業グローバル意識の向上に向けた新たな取組み「留学生の就職支援のためのプラットフォーム」の構築を提言しています。具体的には、ソーシャルメディア、ビッグデータなど近年のIT業界のトレンド要素を積極的に取り入れた仮想空間で、「留学生自己PR動画」を中心的な媒体として活用し、それを留学生、市民、地場企業の3者間でフィードバックすることが有効であることを示しました。現在は、同プラットフォームの実現に向けて取り組んでいます。

(柳基憲研究員)



### ◆マスコミで見る「URC」の今！—最近1か月の情報を中心に—

#### ◎新聞

(2014/7/2 朝日新聞 夕刊 1p)

外国人起業 特区で期待 留学生多い福岡市 在留資格緩和し支援 企業との橋渡し 課題も  
柳基憲研究員の研究データ(上記「今月のおすすめ」ご紹介の報告書から)及びコメントが紹介される。

(2014/7/2 西日本新聞 筑後版 朝刊 26p)

“まちなか授業”へどうぞ 信愛女学院短大が初開講 久留米市の一番街—6日まで、学生の発表も  
当研究所OG山下永子さんが同学ビジネスキャリア学科の講師としてまちなかキャンパス「ビジネスキャリア・ラボ」を設置

(2014/6/30 東奥日報 朝刊 14p)

十和田/アートで魅力 藤館長が紹介 現代美術館で講座  
市民研究員OB藤浩志さんが十和田市現代美術館館長としてアートの楽しみ方を紹介

(2014/6/29 静岡新聞 朝刊 24p)

ビル再生でまち活性化を セミナーで手法学ぶ—富士

市民研究員OB吉原勝己さんがセミナー「リノベーションがまちを変える」で事例紹介

(2014/6/28 東奥日報 朝刊 17p)

十和田 市民大学講座 来月4日開講

市民研究員OB藤浩志さんが講師の一人を務める講座の予告

(2014/6/14 東奥日報 朝刊 15p)

告知板/十和田 22日に「アートをもっと知りたい人のための初級講座」

市民研究員OB藤浩志さんが講師の講座 開催予告

#### ◎雑誌

(2014/8 ランドスケープデザイン 97 2014年8月号 123p)

Books ブック「和のランドスケープ・プランニング—日本の美しい街なみ創造—」市民研究員・短期研究員OB増田元邦さん執筆の本が紹介される。

(2014/7/1 地域開発 vol.598 2014年7月号 1~44p)

特集 福岡都市圏特集:産学官民による新たな成長モデルの構築—FukuokaD.C.(福岡地域戦略推進協議会)の取組

11~14p 「福岡都市圏の国際競争力強化に向けたシンク&ドゥ・タンクの試み」を後藤太一前情報戦略室長が執筆

15~19p 「福岡版スマートシティ構想に向けて—環境部会の活動」を安浦寛人理事長が執筆

32~36p 「「都市再生」:福岡都心再生戦略」を橋田紘一会長が執筆

(2014/7/1 ふくおか経済 vol.311 2014年7月号)

85p リノベーションと企業支援をリンク「スペースRデザイン」事業者ら20件以上入居  
市民研究員OB吉原勝己さんが社長を務める会社の事業が紹介される。(☆印以下同じ)

215p 人事:新塾長に橋田紘一九電工相談役(当研究所会長)九州・アジア経営塾

(2014/6/20 財界九州 No.1078 2014年7月号 126~128p)

九州をリードするFukuoka2014 FDC麻生新体制のもと九州のけん引と「東アジアのビジネスハブ」目指すFDCの活動が紹介される。

(2014/6 東アジアへの視点 第25巻2号)

26~38p 「市民と企業から見た持続可能な環境都市—北九州の取り組み—(後編)」を当研究所OB田村一軌さんが共同執筆 66~73p 「北部九州地域経済の予測分析—第8回—九州のエネルギー消費から見た地域構造」を当研究所OB田村一軌さんが執筆

(2014/6/22 日経ホームビルダー 56~61p)

レポート—カスタマイズ賃貸で空き室を解消 ☆

編集後記 :ブラジルワールドカップ、楽しんでいませんか?残念ながら、アジア勢は1勝もできず予選敗退。改めて、ヨーロッパ、南米の強さが際立っています。日本の課題はスタミナかな?今しばらく、一流のプレイに酔いしれましょう!眠さと闘いながら。(崎)